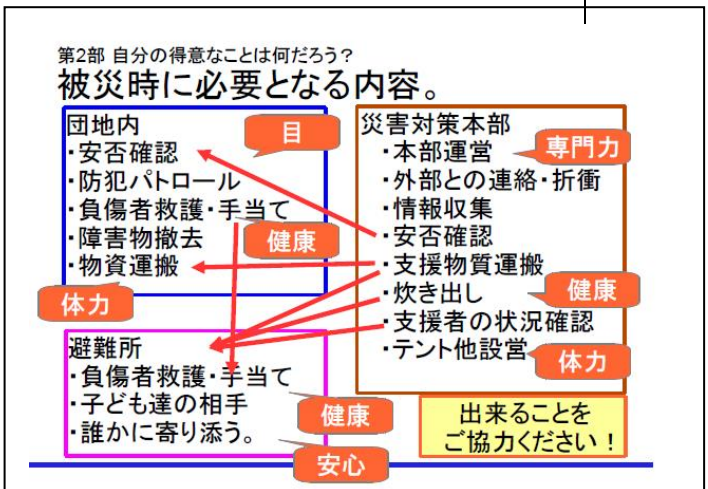
プラン３）

記入日	西暦 2020 年 1 月 10 日（2019 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	UR 都市機構（尾山台団地）
実践番号（団体内・年度内の通し番号）	⑮
タイトル	学んで！体験して！楽しもう！！ 第５回「みんなの防災カフェ」“災害時のコミュニケーション” “自分の得意なことは何だろう”
実践担当者のお名前	尾山台団地自治会・自主防災会　青田　敏彦

実践にかかった金額	5000 円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 10 月 6 日 10 時～12 時
実践の所要時間	２時間
実践の運営側で動いた人の人数	５人
防災教育の対象者の属性	地域住民・女性・高齢者・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 30 人
実践を行った都道府県と市区町村	埼玉県上尾市
実践を行った具体的な場所	尾山台団地集会所
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	準備したもの：模造紙、ペン等文房具、お茶・お菓子

達成目標	①在宅避難を前提に、備蓄もあり生き延びることが出来た。次の心配ごとは“連絡が取れないこと”。大切な人の無事を確認する方法を考える。 どうすれば連絡が取れるか、日ごろから必要なこととは何か。 団地ならではの“ご近所の方”についても考える。 ②災害時に何が出来るか。自分が無事なことを前提に、ご近所同士、お互いの事情を理解し、生き続けるための助け合い「共助」について考える。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	全く　少し　(かなり)　大いに
	思考力・判断力・表現力	全く　少し　かなり　(大いに)
	学びに向かう力・人間性	全く　少し　かなり　(大いに)

実践内容・方法	①固定電話は不通、携帯電話は混み合いつながらない。外出中の家族は、友人は、ご近所は大丈夫か？無事を確認する方法を考える。誰に・自分の居場所・伝えたいことを伝えたい人１人に対し１枚の付箋に記入する。 安否確認方法を決める。例えば、在宅していて身の安全を確保できた方は、黄色いハンカチをベランダに掲揚。帰宅困難な方は、災害伝言ダイヤル「171」を活用等・・・ ②災害対策本部や避難所運営に協力いただける方が少ない。外部からのボランティアも期待できない状況では、限られたメンバーで助け合うしかない。各人が出来ることを出来る場所で実行しよう。自分に出来ることは何か考え、スキルマップを作ってみよう。
	
得られた成果	①普段からのコミュニケーションや挨拶など、日常的な関係作りが大切であることが認識できた。普段から、顔の見える関係づくりをすることが重要と改めて確認できた。 ②各人の趣味特技（料理・山歩き・歌を唄う等）を紹介しあい、災害時にはそれぞれが役に立つこと。特に、子供や高齢者に寄り添うことが出来ることが確認できた。
どのくらい身につきましたか？	知識・技能　全く　少し　かなり　(大いに) 思考力・判断力・表現力　全く　少し　(かなり)　大いに 学びに向かう力・人間性　全く　少し　かなり　(大いに)
課題・苦労・工夫	誰かに伝えるために必要なこと＝日ごろのコミュニケーション、関係性が大切という、非常に重要な課題。ファシリテーターの導き方等、技量が必要。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について **1 つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください**	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ **1 つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください**	
伝えたい相手	集合住宅の自主防災会
伝えたい内容	模造紙と付箋程度の準備で、2 時間のワークショップが可能。災害時に自分の得意とすることが役に立つことが確認でき、自分ごととして捉えることができるワークショップ。